ウウオの卵塊が枯草に付着して2対みられた。水が浅いためか、両種の卵塊は各々1対ずつ点在していた。水路が通じている池(3×4m)にはヒキガエルの卵紐が多数みられた。

このように両種の分布地域の数個所において同所産卵がみられたということは、成体が混棲していて、かつ、それぞれの種類に適当な産卵場所が少ない場合には、同所に産卵することはむしろ普通の現象ではないかと考えられる。両種の幼生の形態は共に静水型であり(佐藤1943)この点からもトウホクサンショウウオの産卵が時として静水で行なわれることを特に異とすることは当たらないともいえるであろう。

擲筆に当り現地を案内していただいた秋田県教育センター本郷敏夫主事、弘前大学成田徹氏に厚くお礼を申し上げます。また適切な指導をいただいた弘前大学奈良典明助教授、懇篤な指導助言と原稿の校閲をいただいた新潟大学岩沢久彰教授に深厚なる謝意を表わします。

引用文献

- 長谷川順一, 1974. サンショウウオの混棲地. 採集と飼育, 36(7): 141.
 杵淵謙二郎, 1977. サンショウウオの混棲地. 両生爬虫類研究会誌, 7: 46.
 佐藤井岐雄, 1943. 日本産有尾類総説. 日本出版社.
 沢野十蔵・高井宙夫, 1952. 弥彦地方の東北山椒魚. 科学, 22(5): 257-258.

戸和田山のクロサンショウウオ産卵池の近況

倉沢甚一郎(新潟大学理学部発生学研究室・新潟県巻町立峰岡中学校)

Recent Condition of the Famous Spawning Pond of *Hynobius nigrescens* in Mt. Towada. Jin-itorô KURASAWA (Embryological Laboratory, Faculty of Science, Niigata University and Mine-oka Junior High School)

青森県大鰐町の南西に位置する戸和田山中腹の貴船神社わきの小池(海拔500m)は、八甲田大岳の鏡沼と並んでクロサンショウウオ *Hynobius nigrescens* の産卵池として古くから有名である(佐藤, 1943; 佐藤, 1967)。根岸(1972)は1927年6月1日にここを訪れ、クロサンショウウオの卵囊を観察しこの池のクロサンショウウオとモリアオガエルの卵囊について、いいつたえと共に詳しく紹介している。この戸和田山の貴船神社は20年前に大鰐町近くの三ツ目内部に移されたことからその後池を訪れる人がほとんどなくなって池が荒れているとか、1973年4月28日に雪解け水と集中豪雨によって山崩れがあり約30町歩の山が流された時にこの池もなくなったという噂があった。

私は1977年6月29日にこの池を訪れた。大鰐駅から約8km、三ツ目内川沿えに高野新田部落があり、2km奥に入ると戸和田山登山口がある。ここから約30分登ると左手に大きな山崩れの跡が広がり、この真上にヒバの大木が林立してみえる。それを目標にして登ると約10分で池に着く。池は林にかこまれて静かなたたずまいを見せ、その脇には今も祠が建っている。池の周辺の様子は根岸が1927年に調査した当時の写真と比較すると、水辺の大木はほとんど枯れて横倒しとなり、低木と雑草が繁茂していた。祠のまわりの木は神社移転当時伐採したものか

図1 戸和田山中腹の池

杉がきれいに植林されている。そのため、50年前の「夏は昼でも深い木蔭が多い」という記述とは違って、日は良く当たり筆者が訪れた時の水温は17°Cであった。すでにクロサンショウウオは孵化し、多数の幼生がみられ、岸辺の水中の枯枝に卵囊の残りがわずかに確認された。池の周辺の草木にはモリアオガエルの卵塊が18個あり、成体があちこちに見られ、その鳴声は見事であった。

原稿の校閲をいただいた新潟大学理学部岩沢久彰教授に厚くお礼を申し上げます。

引用文献

- 根岸 浩, 1972. 津軽南西部地方の両生類. 大阪成蹊女子高等学校研究紀要, 5: 159-180.
佐藤井岐雄, 1943. 日本産有尾類総説. 日本出版社.
佐藤光雄, 1967. 青森県動物誌. 東奥日報社.